

平成30年度 第1回大東市産業振興市民会議（報告）

1. 日時・場所 平成30年5月30日（水）午後3時30分～5時30分  
大東市役所 東別館2階会議室

2. 出欠

【出席】

会長	（株）山田製作所 代表取締役社長	山田 茂
副会長	NPO法人住まいみまもりたい 理事長	吉村 悦子
委員	大阪産業大学 教育研究推進センター長・デザイン工学部教授	濱崎 竜英
	大阪経済大学経営学部准教授	遠原 智文
	明星シンセティック（株） 代表取締役社長	上田 隆章
	新大阪食品産業（株） 代表取締役	北尻 正太
	大東商工会議所 常議員	伊泊 規子
	NPO法人大東夢づくりコミュニティ 代表理事	中村 朋子
	小金屋食品株式会社 代表取締役	吉田 恵美子
	近畿経済産業局 地域経済部 地域開発室長	田口 一江

市 政策推進部長 北本 賢一  
事務局 産業振興課 坂本課長補佐・林

【欠席】

委員 大東市商業連合会 会長 角谷 昌寛

3. 議案

(1) 次年度へ向けた施策案検討

- ・大東市から企業が流出している印象がある。
- ・サンメイツのイズミヤも6月5日に閉店してしまう。
- ・ズンチャッチャ夜市やまちゼミに参加するなど事業者自身の努力も必要ではないか。
- ・ズンチャッチャ夜市に来ている人はお酒を飲む人が多いイメージがあるので、サンメイツではお酒が飲めない人をターゲットに人を呼び込めばどうか。
- ・企業誘致も大事だが、流出防止も同じく重要である。
- ・法人市民税均等割納税義務者数でみた場合、法人数は増えている。
- ・開業率が高いのならば、強みである。理由を分析し、場合によってはヒアリングが必要。
- ・大東は地元愛が強い人や元気な人が多い印象。
- ・新規創業は3年が事業継続の目安。仲間に引き込み経営課題を話せる仲

になれば廃業せず続けていけることが多い。

- ・大東市は個人事業主が多いように感じる。創業の前に商店街等の空き店舗を利用してチャレンジマートのようなものできないか。
- ・起業を失敗してもマイナス評価にならない、むしろプラス評価になる世にならなければ起業家は増えない。
- ・事業承継も課題である。貴重な知識や特許が海外に流出したり埋没してしまったりすると大きな損失である。
- ・跡を継ぐ=息子というイメージを変え、女性でも継げるように支援が必要である。
- ・子供に事業承継するだけでなく、他人や M&A も選択肢に入れてみてはどうか。
- ・就職氷河期だった 40 代の人材に対する支援も重要ではないか。
- ・女性が多様な働き方ができる環境づくりも必要である。
- ・高卒者を採用した企業は、大学に 4 年間行くよりも本人を成長させようという気持ちを持っているはず。それに対する補助や支援があればよい。
- ・どういう事業をするのかではなく、暮らしをどうしたいかを政策に落とし込むかが大事である。
- ・地域未来投資促進法など、国の施策を積極的に利用し、事業者にも有利な枠組みを作るのは自治体の責務である。

#### 4. 次回開催について

7月31日（火）15：30～開催予定。